

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	22人	国語B	22人
② 算数A	22人	算数B	22人
③ 理科	22人		

5 留意事項

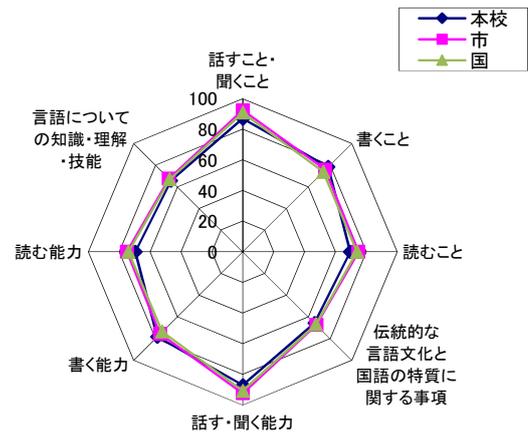
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

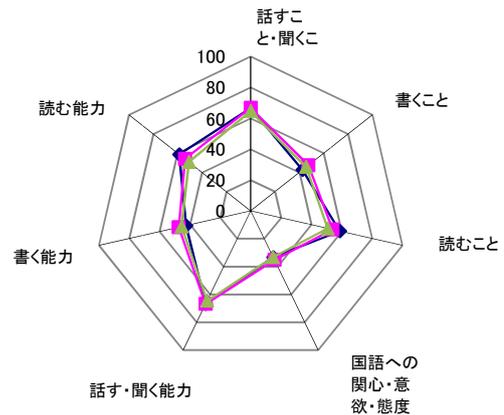
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	87.0	92.4	90.8
	書くこと	78.3	75.7	73.8
	読むこと	69.6	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.8	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	87.0	92.4	90.8
	書く能力	78.3	75.7	73.8
	読む能力	69.6	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	65.8	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	66.8	64.6
	書くこと	42.6	47.4	45.6
	読むこと	58.7	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	33.3	35.2	33.2
	話す・聞く能力	66.7	66.8	64.6
	書く能力	42.6	47.4	45.6
	読む能力	58.7	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

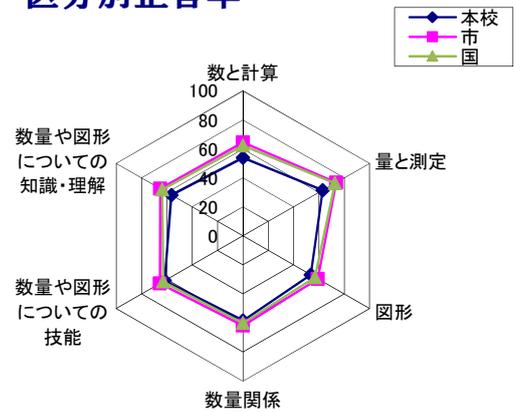
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Bにおける本校正答率は、66.7%であり、市の平均とは同等、国の平均よりも2.1ポイント高い。 ●国語Aにおける本校正答率は87.0%であり、市の平均と比較すると5.4ポイント、国の平均と比較すると3.8ポイント低い。	・目的や意図に応じ、事例などを挙げながら筋道を立てて話す力が高められるように、日常生活において計画的にスピーチや発表などの言語活動を取り入れる。 ・相手や場に応じた丁寧な言葉遣いについても、日常生活の中で継続的に指導していきたい。
書くこと	○国語Aにおける本校正答率は78.3%であり、市の平均よりも2.6ポイント、国の平均よりも4.5ポイント高い。 ●国語Bにおける本校正答率は、42.6%であり、市の平均と比較すると4.8ポイント、国の平均よりも3ポイント低い。 ●目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして文章を書く力に課題が見られる。	・文章の要旨をまとめる力を育てるために、日常的な指導も含め、日記や意見文、紹介文など書く機会を多く設定する。その際、理由として適切な情報のキーワードを見つかり、キーワードを線でつないだりして文章校正を考えさせていきたい。
読むこと	○国語Bにおける本校正答率は58.7%であり、市の平均からは4.7ポイント、国の平均からは7.9ポイント高い。 ●国語Aにおける本校正答率は69.6%であり、市の平均と比較すると5.3ポイント、全国の平均と比較すると4.4ポイント低い。 ●登場人物の心情について、情景描写をもとにして捉えることに課題が見られる。	・物語に登場する人物についての描写や心情、人間相互の関係を捉える力を高めるために、多くの物語文に触れさせるだけでなく、授業においては、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などに注意して読み取ったり、表現の仕方に気付かせたりしながら指導に当たりたい。これらは、低学年、中学年にも関連しているので、継続的に指導する必要がある。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aにおける本校正答率は65.8%である、市の平均からは1.7ポイント、国の平均からは1.2ポイント低い。 ●主語と述語との関係などに注意して、文章を正しく書くことや書かれている内容や文の意味を理解して文中で正しく漢字を使うことに課題が見られる。	・正しい漢字を使い、主語と述語などのつながりに注意して書いた文章を推敲する学習を繰り返し行い、書き直したものが読みやすくなったと実感させていきたい。 ・日常的な指導の中で、新聞などを用いて、多くの文章に触れる機会を多く取り入れていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

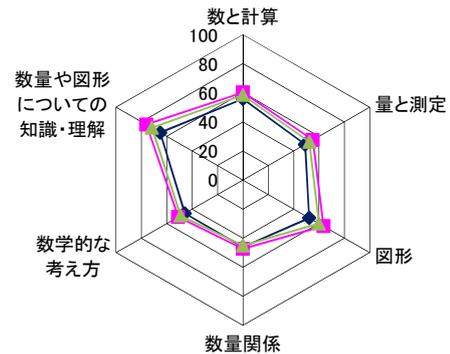
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	53.9	64.5	62.3
	量と測定	63.0	73.6	72.7
	図形	53.6	59.1	56.9
	数量関係	58.3	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	61.7	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	56.5	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.8	60.2	58.4
	量と測定	48.9	55.0	52.4
	図形	52.2	63.5	59.9
	数量関係	46.1	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	45.9	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	65.2	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>●算数Aにおける本校正答率は53.9%であり、市の平均と比較すると10.6ポイント、国の平均と比較すると8.4ポイント低い。算数Bにおける本校正答率は55.8%であり、市の平均と比較すると4.4ポイント、国の平均と比較すると2.6ポイント低い。</p> <p>●計算の意味の理解において、除法で表すことができる数量の関係の理解やそれを数直線上に表すことに課題が見られる。</p> <p>○算数Bにおいて、示された考え方を解釈し、条件に合う時間を判断する力、数量関係を考察し、分配法則の式に表現する力については県、国の平均を上回っている。</p>	<p>・授業の中で多くの計算問題を扱うだけでなく、計算の意味を理解することができるように意識して指導に当たりたい。</p> <p>・文章問題に対して、問題場面を数直線などを使い適切に理解させる。計算だけでなく文章を式で表す問題を多く取り入れ定着を図りたい。</p>
量と測定	<p>●算数Aにおける本校正答率は63.0%であり、市の平均と比較すると10.6ポイント、国の平均と比較すると9.7ポイント低い。算数Bにおける本校正答率は48.9%であり、市の平均と比較すると6.1ポイント、国の平均と比較すると3.5ポイント低い。</p> <p>●混み具合を比べたり、180度よりも大きい角の大きさを求めたりする問題に課題が見られる。</p>	<p>・単位量あたりの大きさについては5年生の学習内容である。学習プリントなどを活用して、授業や朝の学習などで常に復習できるような場を意図的に設定し、定着を図っていききたい。</p> <p>・どのような場面なのかを図などを使って考えたり、小数を整数に置き換えたりしながら問題を理解したうえで、立式するように指導していききたい。</p> <p>・角については、分度器の使い方はもちろんであるが、角の大きさの概念を常に意識して図形を見ることができるようになっていききたい。</p>
図形	<p>●算数Aにおける本校正答率は53.6%であり、市の平均と比較すると5.5ポイント、国の平均と比較すると3.3ポイント低い。算数Bにおける本校正答率は52.2%であり、市の平均と比較すると11.3ポイント、国の平均と比較すると7.7ポイント低い。</p> <p>●図形の構成要素や性質を基に角の大きさの和について言葉や式を用いて記述したり、条件にあう図形を見いだす問題に課題が見られる。</p>	<p>・授業において、日常生活の事象を図形に着目して観察し、的確に捉えたり、それらの構成の仕方等を図形の構成要素や性質を基に考察したりすることができるような場を意図的に設定し、指導に当たりたい。</p> <p>・図形の性質を理解するために、図形がどのような形でできているか、また、辺の長さや角の大きさにも着目することで、対応する辺や角にも目を向けさせたい。そのために、具体物を用いた活動を増やし、図の構成要素を考える指導を行っていききたい。</p>

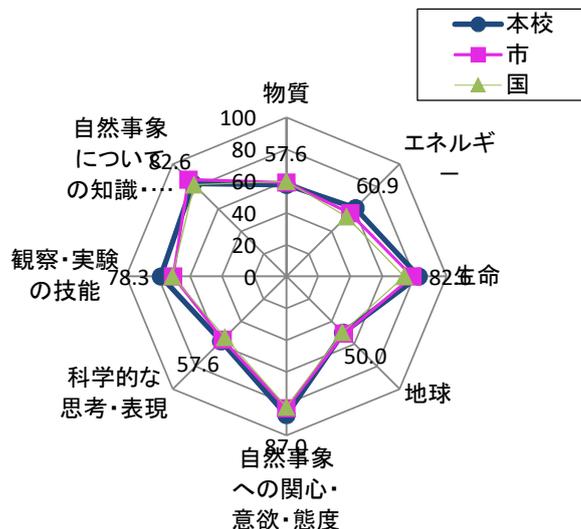
数量関係	<ul style="list-style-type: none">●算数Aにおける本校正答率は58.3%であり、市の平均と比較すると3.5ポイント、国の平均と比較すると1.8ポイント低い。算数Bにおける本校正答率は46.1%であり、県の平均と比較すると1.2ポイント低い。国の平均と比較すると1ポイント高い。●円の直径の長さとおよび円周との関係を求める問題やグラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりする問題に課題が見られる。	<ul style="list-style-type: none">・日常生活の中で主体的に問題を見いだして情報を収集し、表やグラフなどに整理して考察し表現したり、考察した結果から新たな問題を見だし、さらに情報を収集し表やグラフなどに整理しなおして考察したりする場を意図的に設定し、指導に当たりたい。・授業において、図形についての観察や構成などの活動を多く設定し、平面図形についての理解を十分に深めることができるようにしていきたい。
------	--	---

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	57.6	59.0	59.8
	エネルギー	60.9	56.4	53.1
	生命	82.6	78.6	73.6
	地球	50.0	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	87.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	57.6	56.1	54.1
	観察・実験の技能	78.3	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	82.6	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<ul style="list-style-type: none"> ●本校正答率は57.6%であり、県の平均と比較すると1.4ポイント、国の平均と比較すると2.2ポイントやや低い。 ●物の溶け方について、自然の事物・現象への適用を問う問題における正答率は、30.4%、食塩の蒸発について実験を通して結論を書く問いでは21.7%と県、国の平均を下回った。実験を通して、一般化した規則性を導き出すために、複数の事象から検討したり、妥当性を吟味して、記述することに課題が見られる。 ○海水と水の区別を2つの実験から考察する問題における正答率は100%であり、県、国の平均を大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の溶け方は、4年生、5年生に関連する学習内容なので、復習をして定着させたい。 ・実験を行う際、実験・観察の時間を十分に確保し、実験の結果を絵や図等を用いて表現し、質的・実体的な見方を働かせることができるようにする。また、予想や考察の場面において、実験の結果から言えることだけに言及した内容が記述できる場を意図的に設定し指導に当たりたい。
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ○本校正答率は60.9%であり、県の平均と比較すると4.5ポイント、国の平均と比較すると7.8ポイントと市、国の平均を上回った。 ●電流の流れ方について、予想が確かめられ場合に得られる結果を見通して選択する問題における正答率が34.8%と低く、県、国の平均を下回った。実験を行う際に、実験結果を基に自分の考えを改善することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を行う際、児童が問題に対して根拠のある予想や仮説を発想すること、それらを確かめるために発想した解決の方法で実験、観察を行わせることなどを意識して指導に当たりたい。 ・電流の流れ方は、4学年の学習内容であるので、学習したことの復習をさせたい。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ○本校正答率は82.6%であり、県の平均と比較すると4ポイント、国の平均と比較すると9ポイントと市、国の平均を上回った。 ●人間の腕が曲がる仕組みについて問う問題における正答率は56.5%と県の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のからだの学習は、4年生の内容であるが、6年生でも人のからだについて学習するので、既習内容として確認し、定着を図る。 ・人のからだの動きについては、実際に自分のからだに触れたり、体を動かしたりすることや資料を用いて調べたことを人体模型で説明したり、日常生活などと関連付けて考えたりする時間を十分に確保して指導に当たりたい。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ●本校正答率は50.0%であり、県の平均と比較すると0.9ポイント低い、国の平均と比較すると0.5ポイント上回った。 ●流れる水の働きにおいて、実験の結果を問う問題は正答率が県、国より高いのに対して、より妥当な考えを作り出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問いの正答率は13%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流れる水の働きは、5年生の学習内容である。実際の自然の事物・現象との関係に気付くことができるよう、知識や景観を日常生活へ適用する場面を意図的に設定していきたい。 ・実験を行う際には、事実(条件と結果)とその解釈(結果から考えられること)の両方を整理して説明すると分かりやすくすることを押さえたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしているか」については肯定的な回答が100%であることから、家庭学習の定着が図れていると考えられる。しかし、「学校の授業時間以外に普段、一日当たりどのくらいの時間、勉強をしているか」という設問では、1時間から2時間と回答した児童が52.2%、逆に1時間以下と回答した児童が47.8%おり、内容や時間などについてはかなり個人差があることが分かる。今後は、家庭とも連携しながら、家庭学習の精選を行い、内容の充実、時間の確保を図っていききたい。

○「いじめはどんな理由があってもいけないと思うか」という設問では、肯定的な回答をしている児童の割合が100%であり、県や国の割合を大きく上回っている。

○「人の役に立つ人間になりたい」という設問では、肯定的な回答をしている児童の割合が91.3%と県・国の平均を上回っている。

○算数の学習において、「大切だと思うか」「授業の内容はよくわかるか」という設問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が95.7%と非常に高く、児童が学習の意義を考えて授業に臨んでいることが分かる。また、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」という設問では、肯定的な回答をしている児童の割合が82.6%と県や国の割合よりも若干低くなっているが、線分図や文章などで自分の考えが分かるように書くことが出来るようになってきた。分かりやすくかいていた児童の記述を例に挙げながら、どうすれば伝わるのかを考える機会を意図的に設けながら今後も継続して指導に当たりたい。

○今回の算数や理科の問題について、言葉などを使って、わけや求め方を記述する問題でどのように解答したかを問う設問では、「あきらめずに最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合が78.3%と県・国の割合よりも高いことから、何とか答えを導き出したい、解きたいという意識をもち、学習に臨んでいたことが分かる。

○「観察や実験は好きですか」という設問では、肯定的な回答をしている児童の割合が95.6%と県の平均から4.2ポイント、国の平均からは5.8ポイント高くなっていることから、児童が意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。しかし「自分の予想をもとに実験の計画を立てているか」「実験の結果からどのようなことが分かるか考えることができるか」という設問においては、肯定的な回答をしている児童の割合は80%は超えているものの、県、国の平均からはやや低くなっていることから、実験を行うだけでなく、自分の予想を立てること、結果から分かったことを自分の言葉で記述することなどを意識して指導に当たっていききたい。

○「自分には、よいところがあるか」については、肯定的な回答をしている児童の割合は73.5%と県や国の平均を下回ってはいるが、昨年度(60.9%)に比べて、12.6ポイント高くなっていることから、少しずつではあるが自分に自信をもつことができるようになってきていることが分かる。今後も、学習だけでなく、様々な場面で互いのよさを認められる場を意図的に設定し、自己肯定感を高めていきたい。

●「学校のきまりを守っているか」については、肯定的な回答をしている児童の割合が78.3%と県、国の平均を大きく下回っている。普段の学校生活の中で、きまりを守ることの意義をしっかりと考えて行動できるように指導していききたい。

●「新聞を読んでいますか」という設問では、69.6%の児童がほとんど読まないと回答している。また、「社会や地域で起こっている問題に関心がありますか」という設問では、関心があると肯定的な回答した児童が52.2%と全体の半分である。このことから、学校でも意図的に新聞を読む学習を取り入れ、世の中のことに対する興味・関心を高めるようにしていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度、年度初めの懇談会で、全体で家庭教育の重要性を学習指導主任より話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力をお願いし、実施している。（高学年においては、1時間以上と設定している）	宿題については、ほぼ100%の児童が肯定的な回答をしているが、家庭学習時間が1時間以下と回答した児童が半数おり、内容や時間などについて個人差がかなりあることが分かり、内容の充実や時間の確保の指導を行う必要がある。
朝のパワーアップタイムの毎週実施	基礎力が身に付いていないので、毎週水曜に10分間プリント学習を行い、担任外の先生を割り当て、習熟に合わせた指導をする。	4・5年生ともに基礎力に課題が残る。6年生においても課題が残る分野があるが、記述式の問いに答える力の育成も必要である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、漢字・ローマ字、円・球・三角形の概念や平行四辺形の作図など、基礎的な知識や技能に関する問題で、特に市・県の平均より低かった。	復習により定着を図る学習の工夫	課題の内容を細かく明示し、学年末までに身に付けさせることが必要である。4・5・6年生は、過去の本テスト及び全国学力テストを何回も行う。1・2・3年生は課題の部分を共通に理解して重点的に行うなど、定着に向けて努力をしながら、児童の学習へ向かう気持ちも向上させたい。